

油画科	日本画科	区別	予科	第一年	第二年	第三年	第四年	計	研究科	小計
特別学生	本科		二二	二〇	一七	二四	一六	九八	一	九九
一	三七		三九	一七	三九	四〇	一九〇	七	二一九	九九

④ 各科学徒級別現員表

昭和十二年四月一日

佐藤登福島	阿部弥彦新潟	大森朝男東京	西野達二徳島	池田忠彦石川	篠井欽治富山	青木健一郎東京	小林進神奈川	村井養作福岡	梶木常正神奈川	稲塚芳郎愛知	塩釜忠磨宮城	斎野武彦宮城	横谷久由石川	大國多聞大阪	恩地邦郎東京	
小山田功鹿兒島	小林道彦長崎	小林通人福岡	古谷好衛島根	早出守雄長野	大道武男東京	吉井雄之介島根	神崎正樹香川	川合清男東京	大浦正男栃木	大橋太郎神奈川	鬼沢美農作茨城	徳本立憲愛媛	遠山正治長野	稲石永吉茨城	元田長次郎東京	広川勇一郎新潟

図画師範科第一年

12・5	12・2	年月受託	12・6	12・3	年月完成	賞牌	競馬賞典用花盛器	件名数	西成甫	日本学術協会	馬政局	依嘱者	服部玄三	石田英一	製作担当者等
9個	2個														

⑤ 依嘱製作

総計	図師範科画	建築科		工芸科					木彫刻科	彫刻科		
		特別学生	本科	漆工部	鍍金部	鍛金部	彫金部	図案部		特別学生	本科	
一三一			七	七					二	一五	八	一六
一四三	一五	一	八	六	三	二	一	五	一五	七	一九	一九
一三五	一六		七	六	一	六	三	四	一六	八	一四	一四
一四三	一五		六	七		七	二	六	一二	四	一七	一七
一二八	〇		八	六		八	三	五	一七	七	一八	一八
一六八	四六	一	三六	三三	一	三一	一五	二五	七五	三四	二	八四
一五〇	〇		〇	〇	一	〇	〇	〇	〇	五	六	六
一五六	四六		三七	三二	三三	一五	二六	七七	三九	九二		九二

12・4	12・9	12・6	12・4
12・11	12・10	12・8	12・11
詩絵手箱	銀製花盛器	銀製花瓶	日本銀行
1合	2個	3対	貞弘重進
代表	馬政局総務課	課	通信省航空局総務
植木	校歌碑建設会	図案	清水 南山
万里	図案	金沢 庸治	六角紫水
製作	松沼 源吉	鍛金	石田 英一
		石田 英一	

⑥ 新規矩男の再起用

フランス語および西洋文学授業講師として昭和七年三月に起用された新規矩男(368頁参照)は同九年十二月十五日に学術研究のためアメリカ合衆国へ出発し、メトロポリタン美術館東洋部部長を同十一年十二月までつとめた。本校講師を同十年十二月に一旦解嘱されたが、同十二年四月に帰国したので、改めてフランス語授業を嘱託(文庫課兼務)された。そのため、講師富永惣一はフランス語担当から西洋彫刻史担当(無報酬)へと転じた。

⑦ 藤島武二の海外出張

藤島武二は外務省文化事業部の依頼、給費を受けて昭和十二年四月二十三日から約二十日間、満州国へ出張した。出張上申案には「豫テ満洲國ニ於ケル古美術調査ヲナサシメ度希望ノ處今般同國文教部主催ノ下ニ満洲國皇帝陛下ガ大詔ヲ喚發セラレ日滿ノ道義的共同点ヲ高調シ給ヒシヲ記念スルタメ訪日宣詔記念美術展覽會ヲ新京

ニ開催スルコト、ナリタル趣ニテ其ノ審査ヲ同教授ニ依頼シ来タリタルニ付右審査ヲ兼ネテ上テ上述ノ調査ヲナサシメントス」(昭和十二年職員関係書類<sup>並</sup>)と記されている。このとき満州国が招聘したのは藤島と安井曾太郎、松林桂月の三名であった。

⑧ 津田信夫の海外出張

津田信夫は第十六回朝鮮美術展覧会の審査を依頼されたのを機に、昭和十二年五月二日から約三十七日間、朝鮮、満州、中華民国を旅行し、美術および美術工芸品の調査を行なった。

⑨ 田辺至の海外出張

田辺至は第十六回朝鮮美術展覧会の審査を依頼されたため、昭和十二年五月四日から十六日間、朝鮮京城へ出張した。

⑩ 和田三造の海外出張

和田三造は昭和十二年パリで開催の万国博覧会における工芸品の研究と欧米(イタリア、フランス、イギリス、アメリカ)各国主要都市における工芸界一般の趨勢を視察することを目的に同年六月中旬から十月にかけて欧米へ出張した。

⑪ 田辺孝次の海外出張

田辺孝次も和田三造と同様にパリ万国博覧会開催に際して欧州へ出張した。出張上申案には、